

司書・司書教諭資格取得希望学生の意識についての調査

竹内比呂也（千葉大学）(hiroya@L.chiba-u.ac.jp)

辻慶太（国立情報学研究所）(keita@nii.ac.jp)

三輪眞木子（メディア教育開発センター）(miwamaki@nime.ac.jp)

村主朋英（愛知淑徳大学）(muransky@asu.aasa.ac.jp)

吉田右子（筑波大学）(yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp)

柴田正美（帝塚山大学）(mshibata@tezukayama-u.ac.jp)

抄録：専門職としての就職が困難であるにもかかわらず、司書資格の取得希望者には増加傾向が見られること、また司書課程を新設する大学もあるという現状を踏まえ、司書、司書教諭資格取得希望者がどのような受講動機や図書館での経験などを持っているかということを明らかにするために質問紙調査を実施した。調査の結果、回答者は図書館での経験が司書、司書教諭資格取得への態度や意欲に影響を及ぼしていると自ら認識していること、本が好きであることなどといった資格取得希望者の特徴が明らかになった。

1. 研究の背景

「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する調査研究」（平成15～17年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究代表者：上田修一慶應義塾大学教授／日本図書館情報学会会長、略称LIPER) 図書館情報学教育班では、2003年度にわが国の図書館情報学教育の現状についてのケーススタディを行った。この結果、公共図書館における正規職員としての司書の採用が減少し、専門職としての就職が困難な状況となっているという状況がガイダンス等を通じて学生に説明されているにもかかわらず各大学で資格取得を希望する学生数には増加傾向が見られることが明らかになり、また司書課程を新たに設置する大学もあることからこれまで資格課程未設置の大学にも潜在的に司書資格を取得したいと考えていた学生がいたことも推測できた。司書あるいは司書教諭資格を履修したいと考える学生たちの資格取得の動機や意識については、これらの資格教育にかかわっている教員が受講生等と接することによって得ている印象に基づくものであり、実証的な研究は実施されていない。

2. 目的

上記の背景をふまえ、司書、司書教諭資格取得希望者の資格取得の動機とそれまでの図書館活動への参加状況などについて明らかにすることを目

的とした。具体的には、前述のケーススタディによって明らかになった、担当教員による司書、司書教諭資格取得希望学生の受講動機についての認識、および発表者らが教員として学生と接する中で認識してきた学生の意識等について整理し、1) 資格取得についての考えや意欲、2) 図書館の利用経験や本に対する嗜好、3) 図書館に対するイメージ、4) 図書館員に対するイメージ、5) どのような知識が得られると考えるか、6) 将来の職業との関連等に大別して調査することにした。

3. 調査方法

2004年4月から8月にかけて、全国18大学（短期大学を含む）の司書・司書教諭資格取得可能な課程（専門学部、学科を含む）を対象に、アンケート調査を実施した。実際には多くの大学において2004年4月から6月に調査が行われており、8月に実施したのは集中講義によって資格取得のための科目を開講している1大学のみである。調査対象大学は、ケーススタディに協力が得られた大学を中心に、大学の種別（設置者別、4年制／短大、提供されるプログラムの種類）を考慮したスノーボールサンプリングにより選定した。この調査では司書課程・司書教諭課程科目を初めて履修する学生、あるいは図書館情報学専攻等で専門教育を行っている大学において専門教育をはじめて受講する学生（初学者）をターゲットとし、授業中のア

ンケートの実施を各調査対象大学の図書館情報学教育科目（司書資格・司書教諭資格科目を含む）担当の教員に依頼した。どの科目で実施するかは各大学の事情によるので指定せず、上記の条件を満たす学生がなるべく多く受講している授業での実施を依頼した。

4. 結果

18大学から1,901の回答を得ることができたが、半数以上の設問で無回答となっているものや属性を尋ねる質問で無回答や重複回答があるものを無効としたため、有効回答数は1,810であった。以下に単純集計とクロス集計の結果を中心に報告する。クロス集計は各項目について、男女別、取得希望資格別、教育プログラムの種別（専門学部・学科・専攻／中間（独立した学部・学科ではないが、教育学科などの一部として図書館情報学の専門教育が行われている）／資格課程）について行った。

4.1 回答者の属性

男女比は、およそ2対8であった。所属学部については、文学部（人文学部を含む）がほぼ半数（49.7%）を占めて最も多く、次いで「その他」（19.7%）、「短大文系」（15.1%）となった。学年分布では、1年生がほぼ半数（49.4%）であり、若干ではあるが大学院生、科目等履修生も含まれている。

4.2 資格取得についての考えや意欲

1) 希望する資格

取得したい資格については、司書資格希望者（司書教諭資格も希望するが、司書をより強く希望するものも含む。以下同様。）が78.0%、司書教諭希望者（司書資格も希望するが、司書教諭資格をより強く希望するものも含む。以下同様。）がおよそ17.0%、残りの5%が資格取得を希望しないものであった。男女別でみると、男子学生の14.1%が「資格取得を希望しない」と答えており、女子学生の2.7%に比較して高い割合となった。また、専門学部・学科でも11.4%の学生は「資格取得を希望しない」と回答した。

2) 資格取得の意欲

資格取得の意欲について「他の科目の履修を犠牲にしても資格に関する科目を履修する」と答えたものは、資格取得を希望すると回答した者のほぼ半数（52.1%）であったが、男女別で見ると、男子学生45.3%、女子学生53.6%となり、女子学生の方が資格取得意欲がやや強いことが見てとれる。資格別で見ると、司書資格を希望する学生では54.6%

であったが、司書教諭資格希望者では40.6%となった。また専門学部・学科で学ぶ学生では68.5%であったが、資格課程の学生では46.7%、中間が45.7%となり差が見られた。

3) 資格取得を希望する理由

資格取得を希望すると回答したもののうち、その理由として「図書館で働きたいから」と答えたものが最も多く（26.9%）、ついで「何か資格を取りたいから」（21.6%）、「図書館が好きだから」（19.3%）と続いた。男女別クロス集計の結果からは、男子学生の方が「情報を扱う技術が身に付く」からと答えたものの割合が女子学生よりも高く（男子13.5%、女子4.9%）、前述の3つの理由については女子学生よりもやや低くなった。また、司書資格の取得を希望するものは「図書館で働きたい」からと答えているものが最も多い（29.3%）のに対し、司書教諭資格取得希望者では「就職に有利」と答えているものが最も多かった（19.8%）。教育プログラム種別でみると、専門学部・学科で学ぶ学生は「図書館で働きたい」という理由で資格を取得しようとしているものが圧倒的に多いが、それ以外では「何か資格をとりたい」と「図書館で働きたい」の差はそれほど大きくない。（表1参照）。

表1 資格取得の理由（教育プログラム別、上位3位）

	専門	中間	資格課程
図書館で働きたい	148(47.4%)	80(22.0%)	234(22.4%)
何か資格を	33(10.6%)	73(20.1%)	265(25.4%)
図書館が好き	53(17.0%)	68(18.7%)	210(20.1%)
その他	74(23.7%)	140(38.6%)	326(31.2%)
無回答など	4(1.3%)	2(0.6%)	9(0.9%)
合計	312(100%)	363(100%)	1,044(100%)

4) 資格取得を考えた時期

資格取得を考えた時期は、全体では「大学入学後」と答えたものが最も多かった（45.5%）が、司書教諭資格取得希望者においては特にこの傾向が強い（62.3%）。専門学部・学科の学生については「高校生」が最も多かった（表2参照）。

5) 司書・司書教諭以外の資格の取得

全体では「教員免許」（34.1%）が最も多く、以下「パソコン検定」（23.9%）、「学芸員」（19.2%）となった。司書資格取得希望者で特に「パソコン検定」の取得希望が高くなっている（27.2%）。なおこ

表2 資格取得を考えた時期（教育プログラム別）

	専門	中間	資格課程
大学入学後	54 (17.3%)	206 (56.7%)	523 (50.1%)
高校生	160 (51.3%)	116 (32.0%)	381 (36.5%)
小中学生	92 (29.5%)	29 (8.0%)	120 (11.5%)
その他	6 (1.9%)	12 (3.3%)	20 (1.9%)
合計	312 (100%)	363 (100%)	1,044 (100%)

これらの資格については、大学によって取得できるものが異なるので、一概に比較することはできない。

4.3 図書館利用経験と本に対する嗜好

1) 図書館や本に接する機会

公共図書館、学校図書館および大学図書館の利用経験について、また、文庫、読み聞かせ、図書委員、図書館での体験学習、図書館ボランティアなど本や図書館に接する機会について尋ねたところ、全体としては公共図書館、学校図書館、大学図書館のいずれについても使っているが、文庫の利用、読み聞かせ、体験学習、図書館ボランティアについては経験が多くないという結果となった。図書委員としての活動は、その中間に位置していた。取得希望資格による差はあまりない（表3参照）。

表3 図書館等の利用体験（選択肢を数値化して平均を算出）

	司書希望	司書教諭希望
公共図書館利用	2.33	2.34
学校図書館利用	2.28	2.20
大学図書館利用	2.02	2.14
文庫	0.88	1.02
読み聞かせ	0.93	0.86
図書委員としての活動	1.51	1.30
体験学習	0.41	0.56
図書館ボランティア	0.17	0.23

0=「ない」、1=「あまりない」、2=「たまに」、3=「よく」として、数値を平均化した。

2) 本に対する嗜好

「本が好きか」という質問に対して、90%以上が肯定的に回答した。

3) 経験・嗜好の影響についての認識

1) で述べたような図書館や本に接する機会、また2) で述べた本に対する嗜好が司書／司書教諭資格を取得する意欲や態度に影響を与えていると考えているかという設問に対して、肯定的な回答が全体の80%を超えた。専門学部・学科の学生においては「とても思う」と答えたものの割合が

42.6%となっており、その影響を強く感じている学生の割合が他のプログラムの学生（中間28.1%、資格課程30.9%）に比べて高い。

4.4 図書館に対するイメージ

1) 図書館についての認識

「図書館」と聞いて思い浮かべる図書館については、回答者全体の72.9%が「近くの公共図書館」と回答した。司書教諭資格取得希望者も多くが「図書館」と聞いて思い浮かべるものは「近くの公共図書館」であると答えているが、「大学の図書館」「中高の図書館」と答えたものの割合が若干高くなった（表4参照）。また図書館は「本を借りるところ」と回答したものが全体では45.4%と最も多く、ついで「様々な情報を入手するところ」（27.6%）となった。男子学生においては「調べものをするところ」と答えた割合が女子学生よりも高く（男子21.9%、女子12.0%）、専門学部・学科の学生は、「様々な情報を入手するところ」と答えたものが多かった（37.2%、全体では27.6%）。

表4 「図書館」で思い浮かべるもの

	司書希望	司書教諭希望
公共図書館	1,063 (75.3%)	192 (62.3%)
大学の図書館	155 (11.0%)	54 (17.5%)
中高の図書館	142 (10.1%)	52 (16.9%)
その他	37 (2.6%)	8 (2.6%)
無回答など	14 (1.0%)	2 (0.6%)
合計	1,411 (100%)	308 (100%)

2) 図書館のイメージ

図書館のイメージについて、10種類の形容詞を列挙してそれがあてはまるかどうかを尋ねた。選択肢（0=全く思わない、1=あまり思わない、2=やや思う、3=とても思う）をそのまま数値として扱って平均値を求めた結果、「静かな」（平均2.72）「知的な」（平均2.43）「便利な」（平均2.23）といったイメージを強く持っていることが明らかになった。

4.5 図書館員に対するイメージ

1) 図書館員についての認識

「図書館員」と聞いて思い浮かべるものについては、回答者の62.7%が「近くの公共図書館の職員」と回答した。司書教諭資格取得希望者も、多くが「公共図書館の職員」（54.6%）と回答したものの、「大学図書館の職員」（21.4%）や「学校図書館の職員」（20.8%）を思い浮かべると答えたものの割合が

司書資格希望者（それぞれ、17.9%、14.4%）に比べて高くなった。

2) 図書館員のイメージ

図書館員のイメージについて、10種類の形容詞があてはまるかどうかを尋ね、図書館のイメージと同様に選択肢をそのまま数値として扱って平均値を求めた結果、「静かな」（平均2.24）「几帳面な」（平均2.18）「知的な」（平均2.17）といったイメージを強く持っていることが明らかになった。また女子学生と男子学生との比較で最も差が出たのが「力持ち」で前者が1.14、後者が0.80であった。

4.6 どのような知識が得られるか

図書館情報学の専門教育、あるいは司書、司書教諭資格取得のための科目を履修することによって得られる知識についての設問では、「図書館のサービスについて」（80.2%）「本の分類や整理について」（66.7%）「図書館の管理運営について」（64.1%）が多くなった。特に司書資格希望者のうち「図書館のサービスについて」と回答したものの割合は83.1%と司書教諭資格取得希望者（72.1%）より高かった。また専門学部・学科の学生では、「本の分類や整理について」と答えた割合が低い（46.6%）一方、「情報メディアについて」についての知識と答えたものの割合（38.4%）が、全体（26.2%）よりも高くなった。

4.7 将来の職業との関連

図書館情報学を学ぶこと、あるいは司書・司書教諭資格を取得することと将来の職業との関連については、全体としては「図書館や情報センター／司書教諭としてでなくても少しでも学んだことを生かせる職場で働きたい」という希望が最も多く（37.6%）、次いで「資格や専門を生かして図書館や情報センターで、あるいは司書教諭として働きたい」（32.3%）という結果となった。司書教諭資格を希望する学生では「司書教諭として働きたい」という希望が強く（41.6%）、また専門学部・学科の学生にも「資格や専門を生かして図書館や情報センターで、あるいは司書教諭として働きたい」と回答したものが多かった（45.2%）。

4.8 資格取得に特に積極的な学生の特徴

資格取得への意欲が強く、「図書館で働きたい」という理由で資格取得を希望し、将来の職業についても「資格や専門を生かして図書館や情報センターで、あるいは司書教諭として働きたい」を挙

げている学生を「資格取得に特に積極的な学生」としてデータを抽出し、彼らがどのような特徴を持っているかを明らかにしようとした。このような学生は254名で、これは資格取得希望者の14.8%であった。プログラム別に見ると専門学部・学科の回答者の28.4%、中間の10.7%、資格課程の10.5%となった。全体的な傾向と比較したところ、1) 1年生、女子学生の割合が高く、年齢が低いことから資格取得を考えている、2) 図書館をよく使っている、また図書館での活動経験が多い、3) 本を「とても好き」と回答した割合が高い、4) 図書館と聞いて「大学の図書館」を思い浮かべると回答した人の割合が低い。5) 図書館に対して「明るく」「開放的」「堅苦しくない」と肯定的なイメージを持っている人が多い、6) 図書館員と聞いて「大学図書館の職員」を思い浮かべると回答した人の割合が比較的低い。7) 図書館員に対して「明るい」「陽気な」「社交的」と肯定的なイメージを持っている人が多いといった点に特徴があることがわかった。

5. まとめ

上記のように、アンケート調査の単純集計と簡単なクロス集計の結果から、司書あるいは司書教諭資格を取得しようとしている学生の特徴として、いくつかの点を明らかにすることができた。すなわち、本が好きで、図書館について様々な経験を持ち、またそのような経験や本に対する嗜好の影響を受けて司書、司書教諭の資格を取ろうとしているということである。図書館情報学教育の専門学部・学科においても資格を取得しようとする学生の割合が高いこと、また図書館のイメージが主として公共図書館によって形成されていることを考慮すれば、公共図書館の実践の有り様が今後の図書館情報学分野における人材確保に直接的に影響を与えることが示唆される。またこのような意識を持っている学生たちが、図書館情報学教育あるいは資格教育をうけることによって、どのようにその意識を変えていったかという、ある種の追跡調査が必要ではないかと思われる。

謝辞

最後になりましたが、調査にご協力いただいた、18大学の担当の先生方、学生の皆さんに心よりお礼申し上げます。

<訂正>2 ページ、右カラム上から2行目

誤「...また専門学部・学科で学ぶ学生では68.5%であった...

正「...また専門学部・学科で学ぶ学生では77.2%であった...